

講演会

「半堂、舞臺、舞臺」
根と路の交差点に

出演・今福龍太

8 / 14 日

13:00 - 15:00

会場：青森県立美術館シアター

アーティスト

「マジック・ドゥ・リ」

あるいは記憶の海

「手紙」

出演

中村澤俊

（作家、批評家）

8 / 13 土

10:00 - 19:30

集合：新青森駅東口③バス停

アートツアー

ジャッカ・ドフニの舟、あるいは記憶の海—— T.Y.への手紙

「ジャッカ・ドフニ」とはウィルタ語で「大切なものを収める家」。それは海と群島を渡りながら生きてきた小さな民族の集団的な「記憶」のことであり、作家津島佑子の遺作となった崇高なる長編小説の表題でもあります。津軽半島はこの群島渡りの壮大な小説における重要な舞台の一つ。父太宰治の故郷への新たな接近とともに、津島さんは津軽を一つの踏み台にしてアイスと隠れキリシタンとアジアの海をめぐる私たちの隠された記憶を浮上させようとしていました。このジャッカ・ドフニの舟に私たちが乗り込み、ツガル（アイス語でチュプカグル＝太陽の出る土地）という、列島文化の古層であり無数の到来者の十字路口でもある「根と路」のクニを巡礼してみませんか。半島各地の自然舞台で、T.Y.（津島佑子とそのヴィジョンに連帯するすべての人々）に向けた今福龍太による詩＝手紙の朗読と、それに掛け合う中村達哉のダンスが静かに展開していきます。潮と風に彩られた半島をめぐる夢幻周遊のひとつときをお楽しみください。

日時：8月13日（土）10:00-19:30

出演：今福龍太（文化人類学者、批評家）、中村達哉（ダンサー）

集合：新青森駅東口③バス停に10:00集合

定員：先着20名

申込：電話（017-783-3000）にて受付・参加無料

講演会

半島、孤島、群島—— 根と路の交差点で

人は根（ルーツ＝roots）を大切に抱きかかえ、さまざまな路（ルーツ＝routes）へと憧れ出て行きます。「アクグレアリク」（憧れ歩く）という古語は、人間がその本性として、何か外にあるものに心惹かれて家を出てさまよう精神をはじめから宿していることを示しています。縄文紀から人間が定住して大地に野太い根を作ってきた青森。同時に、本州の北の突端にあってさまざまな時代に海を介して異人たちを受け入れてきた青森。多くの移動者・放浪者を排出してきた青森。まさにこの文化の激的な交差点で、いま、傲慢で排他的な大陸的思考に代わる、柔らかく包含的な半島・孤島・群島の思考原理を、さまざまな思想の先人や作家、アーティストたちの営為を手がかりに探究してみたいと思います。

日時：8月14日（日）13:00-15:00

出演：今福龍太

会場：青森県立美術館シアター

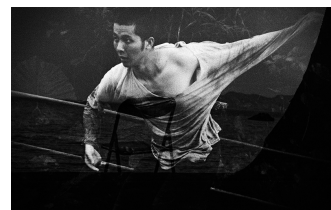
定員：200名

申込：不要・参加無料



いまふくりゅうた
今福龍太

1955年東京都生まれ。文化人類学者・批評家。東京外国語大学大学院教授。2002年より遊動型の野外学舎「奄美自由大学」主宰。著作に『クレオール主義』（ちくま学芸文庫）『ブラジルのホモ・ルーデンス』（月曜社）『ミニマ・グラシア』（岩波書店）『群島 - 世界論』（岩波書店）『身体としての書物』（東京外国語大学出版会）『レヴィ＝ストロース 夜と音楽』（みずす書房）『薄墨色の文法』（岩波書店）『書物変身譚』（新潮社）など。共著に『知のケーススタディ』（新書館）『時の島々』（岩波書店）『アーキペラゴ』（岩波書店）など。



なかむら たつ や
中村達哉

1975年生まれ。1999年慶應義塾大学環境情報学部卒業。在学中よりダンスカンパニー「イデビアン・クルー」のダンサーとして活動を始め、現在に至るまで、国内外の公演に参加。他に、パフォーマンスシアター「水と油」の作品や山下残の作品などに出演。またASA-CHANG&巡礼 feat. ハナレグミ「カナ」、星野源「化物」などのミュージックビデオに出演する。ソロ活動として美術家や他のジャンルのアーティストとのコラボレーションを多数行う。2013年自作のソロ作品「そこから眺める」をSTスポットにて発表。

お問合せ

青森県立美術館

〒038-0021 青森市安田字近野185

TEL 017 783 3000 FAX 017 783 5244

MAIL bijutsukan@pref.aomori.lg.jp

HP www.aomori-museum.jp

10TH 青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART